



鷹野雅生 議会速報

GASHIN

Vol.9 2014.6

〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

はじめに

皆さん、おはようございます。

八幡みどりの市民の鷹野雅生です。

本日3番目の質問をさせていただきます。
お疲れのところですが、しばらくの時間お付き合いをお願いします。

それでは通告に従い質問をさせていただきます。

この号の内容

- 1 はじめに
- 2-3 観光の振興
- 4 観光の振興 答弁
- 5 まちづくり
- 6 まちづくり 答弁
- 7 河川行政 質問&答弁
- 8 観光の取組み 再質問
- 9 再質問と要望

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと思います。
願っております。

1つ目の大きな柱「観光の振興について」

+++++ 観光の活性化 +++++

八幡市議会議員として就任以来、3年半という月日が過ぎていきました。私が一貫して取り上げてまいりました案件、それは観光です。八幡市の発展のために取り組むべき課題が多くある中で、私は観光を重点施策として位置づけ、積極的に展開すべきであるとの信念を持っています。

観光は、あるものを生かすものであり、なければつくり出すことでもあります。重ねて申し上げますが、私が観光をテーマに毎回質問をしてまいりましたのも、八幡市にある豊富な観光資源がこれまでに十分生かされていないことを残念に思うからです。

八幡市は、男山や三川合流部が駅前付近にあり、自然環境の豊かさ、見事さは十分に生かされているとは言えないと思います。石清水八幡宮や松花堂は、観光面から言えばもっと積極的に活用すべきです。京都市、宇治市から南部に広がる自治体の中では、八幡市はどこにも負けていません。自然環境のすばらしさ、歴史・文化の観光資源に足りないところは、知恵を出してつくりだし、八幡市に観光客を呼び寄せ、一度来た観光客をリピーターにする努力をすることが、市に課せられた喫緊の課題だと考えています。

なぜなら、日本がこれから生きていく柱の一つが観光であり、京都府には年間5,000万人の観光客が来ているのです。もう一步、八幡市に足を伸ばしてもらう努力は、決して至難の業ではありません。市がどんな考え方をするのか、スタンスにかかっています。今年度改定されました八幡市観光基本計画は、物見型観光を含め観光客にお越しいただくため、本市だけでなく周辺地域と連携し、観光行動を物語として構築する物語観光を進められようとしています。

地域が観光地として魅力あるものになり、継続的に発展することが重要であります。この後は、より具体的に述べてまいりたいと思います。

2020年のオリンピック、パラリンピックが東京に決まりました。おもてなしは、今や世界に通じる日本語になりつつあります。日本が観光立国となれば、申すまでもなく京都府が昔も今もこれからも主役であることは、多くの方が認めるところです。清水寺界限は、昔から人は多いですが、今は嵯峨、嵐山、金閣寺、銀閣寺、北山、南禅寺界限なども、観光客であふれています。

宇治の平等院及びその周辺も、観光客であふれています。

この賑わいを、隣の賑わいとして見ている手はないと思います。昨年の夏は、JR東海の「そうだ、京都行こう」キャンペーンの舞台に石清水八幡宮が取り上げられました。キャンペーン以降も、関東、中部地方から例年より多くの観光客が石清水八幡宮に来ていると伺っております。また、市内観光スポットにも行かれ、観光バスもふえています。

観光の振興

+++++ 観光の活性化 +++++

リュックサックを背負って、まち歩きをされている方もふえています。昨年、JR東海の観光キャンペーンをきっかけに、駅前周辺の活性化を目指し、駅前ライブ事業、駅前の空き店舗を活用したふれあい館事業、空き店舗前の大型観光案内板設置事業、老朽化した空き店舗を覆う事業などを実施され、以前と比べると駅前はきれいになりましたが、NPO植栽の会が運営をされていた米(マイ)ショップも閉店され、老朽化した建物の中、毎日営業されている食堂1店舗以外、ふれあい館がたまたまに利用されているという非常にさみしい現状があり、駅前の活性化というのは、実に多くの課題を抱えていると思います。

やはり、店舗などが集中しないと、根本的に駅前振興はできないのではないのでしょうか。ことし4月には、背割堤の八幡さくら祭りに、20万人を超える観光客が来られました。また、昨年に引き続き、ことしも背割堤の桜のトンネルが、関西人気お花見ランキングで1位となりました。

同時期に、市内では石清水八幡宮、石清水燈燎華、松花堂つばき展、飛行神社をメイン会場に、東高野街道、八幡まちかどひなまつりなどの催しが行われました。つまり、桜のシーズンの駅前周辺は、観光客で大変にぎわったということでもあります。

今後も多くの観光客が来られる中で、八幡市の玄関口である八幡市駅前周辺を、お正月や桜の季節だけでなく、もっと賑わいのある環境にしていかなければいけないと思います。観光の活性化によって、駅前の再開発につながっていくような具体策を展開していただきたいと願っています。

そこでお伺いいたします。

質問

①本市の資源を生かした観光づくりについて。

⇒多くの豊かな自然と歴史文化の情報発信、観光客を迎えるおもてなしの観光づくりについてどのように取り組んでるのかお聞かせ下さい。

②駅前振興について。

⇒エジソン通りからケーブルの駅前までの活性化についてどのように考えておられるのかお聞かせ下さい。

豊かな観光資源
駅前活性化
喫緊の課題

観光振興 答弁

1つ目の大きな柱「観光の振興について」

+++++ 観光の活性化 +++++

答弁

①本市の資源を生かした観光づくりについて。

⇒資源を生かした情報の発信につきましては、インターネットなどを利用した観光情報発信の機能強化として、ホームページの多言語化への対応や利用者が急増しているスマートフォンへの情報提供に、引き続き努めてまいります。あわせて、テレビ、ラジオや新聞、雑誌、ガイドブックなどの情報媒体を活用して、自然や歴史文化などの発信に取り組んでまいりたいと考えております。

また、おもてなしの観光地づくりにつきましては、今回改定いたしました観光基本計画では、市民、事業者、観光協会、行政などが一体となり、おもてなしの心と仕組みづくりが必要としております。そのためには、人づくりが大切と考えておまして、ボランティアガイドなどの養成講座の実施や、市民、事業者が来訪者に八幡市の魅力を紹介できるよう資料提供及び講習会や研究会などの開催を、観光協会とともに予定しております。

②駅前振興について。

⇒八幡市駅前の活性化の取り組みでございますが、既存店舗や空き店舗が点在した、老朽化も著しいことから、新たな店舗進出、業種転換は非常に困難であると考えております。しかし、駅前周辺の賑わいを取り戻すため、昨年のJR東海の観光キャンペーン時と同様に、大型観光案内板の設置やふれあい館を引き続き活用できるよう、地権者と協議しております。また、米(マイ)ショップ跡の店舗につきましては、観光協会が土産物を提供するため、活用を検討されていると伺っております。

八幡市駅前の活性化に係る整備につきましては、取り組めておりません。八幡市駅周辺の土地が、京阪電鉄株式会社のほか民有地でありますことから、本市観光部門と協力しながら、この区間のイメージアップや土地所有者に対して美化に向けた協力依頼を行ってまいりたいと考えております。

2つ目の大きな柱「まちづくり行政」

+++++ 行政の取り組み +++++

長年の懸案でもありました駅舎にエレベーターが設置され、バリアフリー化が完成し、観光案内所やトイレがリニューアルされ、駅前交番もでき、駅前のハード事業は着実に進んでいると思いますが、駅前の活性化ということになると、まだまだほど遠い状況にあります。

八幡市駅は、市内外への交通ネットワークの起点であり、石清水八幡宮や淀川河川公園、背割堤地区への最寄りの駅であるなど交通、観光の拠点として役割を果たしております。このためにも、八幡市駅前のバスロータリーを含めた駅前の改修は重要な取り組みと考えます。

第4次八幡市総合計画においても、リーディングプロジェクトの一つ、交流拠点整備プロジェクトにおいて、市民交流の推進と観光の振興を目指した八幡市駅前周辺の整備推進が明記されています。観光面だけでなくまちづくりを含めて、石清水八幡宮の門前町の表玄関にふさわしい駅前周辺整備に向けて、今後、用地確保の問題もあり、地権者や関係機関と協議し、取り組んでいくこと必要だと考えます。

三川合流地域において、国土交通省淀川河川事務所では、背割堤地区公園サービスセンター整備計画があり、市道科手土井線の道路移設工事は、放生川水辺散策街道へのアクセス道路にもつながります。最寄りの駅である八幡市駅前周辺の活性化にもつながっていくと考えます。

そこでお伺いいたします。

質問

①八幡市活性化につながる取り組みについて

⇒大規模な事業により一挙に駅前周辺を活性化させることは困難が多くあることはわかりますが出来ることから一歩ずつ何か活性化につながる取り組みは考えておられるのか。また、エジソン通りからケーブルの駅までの整備についてどのように考えておられるのかお聞かせ下さい。

②市道科手土井線の歩行者の安全対策について。

⇒八幡市駅への道路移設工事は背割堤公園や鹿野橋から放生川水辺散策街道へのアクセス道路となるため、御幸橋なみの歩道幅をせ設置し歩行者の安全対策に配慮することが必要と考えますがお考えをお聞かせ下さい。

答弁

①八幡市活性化につながる取り組みについて

⇒放生川は親水化を図りつつ、周辺の景観整備を進めてまいりました。景観整備につきましては、市道森高坊線の石舗装、さざなみ公園の桜の植栽やベンチ、河川内の遊歩道などの整備、安居橋を初め全昌寺橋、八幡橋などの景観に配慮した整備を行ってまいりました。

放生川は、通常時は流量は少なく、勾配が大変緩いため、流れが見えにくい河川であります。

このため、大谷川と防賀川の合流場所から、ポンプにより送水を行っておりますが、水量確保という点では十分ではありません。

ことし5月末には、対策として、安居橋から八幡橋間において川の流れが見えるようミオスジの整備が行われました。

引き続きミオスジの整備や流量を増す手法などについて、京都府と協議、調整してまいりたいと考えております。

②市道科手土井線の歩行者の安全対策について。

⇒現在、京都府山城北土木事務所において、木津川御幸橋架けかえに伴う市道科手土井線の移設工事が行われております。

このつけかえ工事区間の歩道幅員は、市道科手土井線の鹿野橋付近の歩道既設区間または木津川御幸橋の歩道幅員と同じ3.5メートルで整備が行われております。

八幡市第4次総合計画のリーディングプロジェクトの一つ、川再生プロジェクトの中には、プロジェクトの実現により目指す姿は、八幡市駅から太鼓橋の石畳の道は、右に八幡宮があり、左に放生川が流れ、訪れる人々にやすらぎを与えます。

ここから松花堂美術館までの東高野街道は、観光ルートとして、また市民の散策ルートとし賑わい、商店も活気にあふれています。

市民活動が契機となって、清流を取り戻した放生川のほとりでは、観光客や市民がいこい、子どもたちも安心して水遊びができ、環境自治体宣言のまちのシンボルゾーンとなっていますとあります。

これは、私の思いともぴたり一致いたします。プロジェクトの実現により、八幡市の玄関口でもある八幡市駅前を含めて放生川一帯がきれいになれば、八幡市のイメージはずいぶんよくなると思います。

市民のいこいの場、観光客が何度も訪れたい場所、そんな場所になることを願っています。

河川行政 質問と答弁

+++++ 川再生プロジェクト +++++

八幡市第4次総合計画のリーディングプロジェクトの一つ、川再生プロジェクトの中には、プロジェクトの実現により目指す姿は、八幡市駅から太鼓橋の石畳の道は、右に八幡宮があり、左に放生川が流れ、訪れる人々にやすらぎを与えます。ここから松花堂美術館までの東高野街道は、観光ルートとして、また市民の散策ルートとし賑わい、商店も活気にあふれています。

市民活動が契機となって、清流を取り戻した放生川のほとりでは、観光客や市民がいこい、子どもたちも安心して水遊びができ、環境自治体宣言のまちのシンボルゾーンとなっていますとあります。これは、私の思いともぴったりに一致いたします。プロジェクトの実現により、八幡市の玄関口でもある八幡市駅前を含めて放生川一帯がきれいになれば、八幡市のイメージはずいぶんよくなると思います。市民のいこいの場、観光客が何度も訪れたい場所、そんな場所になることを願っています。

そこでお伺いします。

質問

①放生川の整備、景観について

⇒現在の放生川は川の流れが少し見えるようになり、川の中や周辺にはメダカやアメンボ、ザリガニ、オタマジャクシ、カエル、トンボやチョウなど、いろいろな生き物が観察できるようになりました。以前と比べると、少しずつではありますが川がきれいになってきました。しかし、この放生川再生プロジェクトに書かれているプロジェクトの実現を目指すには、まだまだほど遠い状況であります。放生川全昌寺橋の整備については放生川全昌寺橋上流、下流は、河川に親しみを持てるように階段状の場所になっていますが、現状は草が繁茂し、土砂が堆積して、暗いイメージがあります。それをこの際、暗いイメージを変え、ミニコンサートをしたり、親子で水辺を楽しんだり、子どもたちが生き物を観察したり、鹿野橋から放生川の水辺を散策する回廊など、八幡市の駅前でもあるので、水辺を利用したイベントゾーンとして整備して、市民のいこいの場として活用されてはどうでしょうか。行政の熱意が問われていると思います。お考えをお聞かせください。

答弁

①放生川の整備、景観について

⇒全昌寺橋上下流の整備につきましては、階段護岸やベンチの設置など親水化の整備は完了しております。しかし、新たな活用があれば京都府も整備を考えると伺っておりますので、関係団体と活用について協議してまいりたいと考えております。

観光の取り組み

【要望】

+++++ 観光の活性化 +++++

観光への取り組みに関しましては、これまで述べてきましたように、八幡市駅前周辺には、石清水八幡宮を中心に門前町としての八幡市駅、放生川、背割堤、三川合流、飛行神社、高良神社、神応寺、落書き寺、太鼓橋、航海記念塔など、駅前周辺だけでこれだけのすばらしい観光資源が存在しています。

将来に向けての課題は、これらの地域を点として捉えるのではなく、円となり、一つの面として捉え、互いをリンクさせながら、新たな企画なり施策を構築、展開していくかが問われていると考えます。

そこで、1点目に今申しました駅前だけでも数多く存在する観光資源を一つの円として捉える考え方を、本市が提唱されている物語観光に取り入れて展開できると考えていますが、いかがでしょうか。

もう1点は、私が以前から申し述べていることですが、男山ケーブルの活用です。確かに山頂への交通手段ではありますが、あの男山ケーブルを観光手段として位置づけを変えることです。観光手段として見れば、広報への取り組みも変わってきます。変わらなければいけません。八幡市駅に特急電車からも見える字で、ケーブルで男山山頂に行こう、男山山頂へと、キャッチフレーズになるような看板を出すことも必要かと思えます。この際、ケーブルの位置づけ変更も含めて、京阪電鉄に働きかけていただきますようお願いいたします。要望とさせていただきます。

今申し上げました観光振興の推進については、環境経済部商工観光課の観光部署だけでなく、まちづくり推進部、都市管理部など多くの部署の協力が必要となってきます。市長のリーダーシップのもと、八幡市駅前の賑わいをつくり出すために、観光を切り口として、ソフト面、ハードにおいて、関係部署が連携を図り、事業施策を進めていかれることを切に願っております。

次に、まちづくり行政に関しては、市道科手土井線の移設工事跡は、八幡市駅の北側にあります。八幡市の北の玄関口として、八幡市の門前町にふさわしい風情ある歴史を感じる修景を考慮した整備をしていただきたいと思います。また、車に乗っている人からもすぐにわかるように、目立つようなものにしてほしいと考えますが、どのような整備を考えておられるのかお聞かせください。

次に、河川行政に関しましては、放生川の景観整備、そして放生川全昌寺橋上流、下流の整備については、景観がよくなり、市民のいこいの場となるためには、ボランティアで美化活動をするには限界があります。放生川の景観を大きく改善するためには、行政のハード面のお力が必要です。お力とお知恵をお借りしたいと考えます。要望とさせていただきます。

八幡市の北玄関口
目立つ看板
風情ある歴史

再質問と 要望

+++++ まちづくり行政・河川行政 +++++

再質問

まちづくり行政に関しては、市道科手土井線の移設工事跡は、八幡市駅の北側にあります。八幡市の北の玄関口として、八幡市の門前町にふさわしい風情ある歴史を感じる修景を考慮した整備をしていただきたいと思います。また、車に乗っている人からもすぐにわかるように、目立つようなものにしてほしいと考えますが、どのような整備を考えておられるのかお聞かせください。

要望

河川行政に関しましては、放生川の景観整備、そして放生川全昌寺橋上流、下流の整備については、景観がよくなり、市民のいこいの場となるためには、ボランティアで美化活動をするには限界があります。放生川の景観を大きく改善するためには、行政のハード面のお力が必要です。お力とお知恵をお借りしたいと考えます。要望とさせていただきます。

答弁

今回改定いたしました観光基本計画には、駅前物語として八幡の八幡さんの石清水八幡宮やコウラ神社、航海記念塔、忠八の夢の飛行神社、恋物語の放生川などを記載しております。これらを結んだ駅前観光ルートの作成につきまして、関係団体、観光協会等と協議の上、取り組んでまいりたいと考えております。

現在、京都府が実施されています道路移設工事完了後に、その跡地を八幡市の北の玄関口としての修景を考慮した広場とすることとしております。この整備は、道路東側の歩道設置、従前設置してあった記念碑や新たなモニュメントのほか、休憩施設、災害時の初期対応にも活用できる施設などの設置を計画しており、今後、地元説明を実施し、歴史街道検討委員会に諮った上で整備を進める計画としております。